

別記様式2

## 副専攻プログラム説明書

開設学部（学科）名〔 経済学部経済学科昼間コース 〕

プログラムの名称	(和文) 現代経済副専攻プログラム
	(英文) Economic Analysis
1. 概要	<p>消費者としての我々の一人一人の行動，生産者としての企業の活動はどのような原理に基づいているのだろうか。それらが合わさった様々な市場における財（モノ）や資本（カネ）はどのようなメカニズムによって配分されているのだろうか。そこで政府はどのような役割を果たすのだろうか。経済のグローバル化によって世界各国が財や資本をより活発に交換し始めると，あたらしくどのようなことが起こってくるのだろうか。経済学はこのような問題について考える学問であり，学生諸君が卒業後に経済生活を営んで行く上で，経済学は法学とならんで社会人としての「読み書き・ソロバン」にも匹敵するような重要性を持つものである。</p> <p>本現代経済副専攻プログラムは，このような経済学の学問体系のコア部分を熱意ある学生諸君に副専攻プログラムとして提供しようとするものである。</p>
2. 到達目標	経済学の学問体系のコア部分に関する基礎知識を身につけることが，本プログラムの到達目標である。
3. 登録時期	副専攻プログラムの開始時期は，原則として2年次である。 登録時期は，履修開始前に行うこと。ただし，教員会が許可した場合は，事後の登録も可能とする。
4. 登録要件	登録要件は特に設定しない。
5. 受入上限数	経済学は積み上げ型の学問であるので，初年度に専門基礎科目を履修した後に，次年度以降に専門科目を履修することが重要である。理系の学生諸君は微分積分通論・線形代数通論・統計学1の履修は必要としないと思われるが，経済数学の履修は強く勧める。
6. 授業科目	※授業科目は，別紙の履修表を参照すること。 ※授業内容は，各年度に公開されるシラバスを参照すること。
7. 修了要件	本副専攻プログラムを修了するためには，専門基礎科目から8単位，専門科目から18単位の合計26単位を選択履修することが必要である。
8. 責任体制	現代経済プログラムの責任者である経済学部昼間コース主任が，本副専攻プログラムの責任者を兼ねるものとする。

9. 既修得単位等の認定単位数等

(1) 他大学等における既修得単位等の認定単位数等

他大学での既修得単位の認定は8単位までとする。ただし科目区分が基礎の科目に限る。

(2) 広島大学における既修得単位(科目等履修生として修得した単位を含む。)の認定単位数等

広島大学での既修得単位の認定は8単位までとする。ただし科目区分が基礎の科目に限る。

**【副専攻プログラム履修に関する注意事項】**

○主専攻プログラムの授業時間割の関係で、登録した副専攻プログラムの授業科目履修が制限されることがある。

○副専攻プログラムで開設されている授業科目も、本学共通の平均評価点(GPA)の計算対象に含まれる。

## 現代経済副専攻プログラム履修表

科目区分	授業科目	単位数	履修期	履修区分	要修得単位数	備考	
専門科目	基礎	微分積分通論	2	3セメ	選択必修	8	(教養教育基盤科目)
		基礎線形代数学	2	4セメ			
		ミクロ経済学入門	2	3又は4セメ			
		マクロ経済学入門	2	3又は4セメ			
		経済数学	2	3又は4セメ			
		統計学1	2	3又は4セメ			
		統計学2	2	3又は4セメ			
		経済史総論1	2	3又は4セメ			
		経済史総論2	2	3又は4セメ			
	専門	ミクロ経済学1	2	5又は6セメ	選択必修	18	
		ミクロ経済学2	2	5又は6セメ			
		マクロ経済学1	2	5又は6セメ			
		マクロ経済学2	2	5又は6セメ			
		経済政策論1	2	5又は6セメ			
		経済政策論2	2	5又は6セメ			
		国際経済学1	2	5又は6セメ			
		国際経済学2	2	5又は6セメ			
		金融論1	2	5又は6セメ			
		財政学1	2	5又は6セメ			
財政学2	2	5又は6セメ					
合計					26		

※副専攻プログラムに含まれる授業科目で、第1年次末までに修得した単位があれば副専攻プログラムにおいて認定することができる。  
ただし、その認定された単位が主専攻プログラムの単位として認定されるかどうかは主専攻プログラムの履修基準による。